



## 「余りに貧弱な格好のキリスト様」

～救い主の真の姿～

「あなたがたは、幼子がみすばらしい布にくるまって、飼葉おけの中に寝かせてあるのを見るでしょう。あなたがたは、余りに貧弱な格好のキリスト様だと思うかもしれませんが、これが救い主の印なのです。」ルカによる福音書2章12節 [現代訳聖書]

メリークリスマス！主のご降誕を心よりお祝い申し上げます！

世界で初めのクリスマスはパレスチナの小さな町の片隅でひっそりで行われました。実はキリストが誕生したのはいつの季節だったかは定かではありませんが、後の教会が12月25日と定めたという経緯があります。しかし、ルカによる福音書を読むと、その歴史上具体的な時代にお生まれになっていることがよく分かります。ですから、キリストは100%実在の人物であることが言える訳です。しかし、その誕生の仕方はとてもユニークでした。キリストとは救い主、メシア、メサイヤの意味であり、名前の一部ではなく、称号です。ですから、本当の名前はイエス。イエスとは旧約聖書では「ヨシュア」と同じで、とてもポピュラーな名前でもあります。

救い主、メシアとしてお生まれになったイエス様は、処女マリヤから生まれました。彼女は結婚相手のヨセフとは同居していませんでした。神の霊、聖霊によって懐妊しました。また、その誕生も、家畜小屋というみすばらしい所で、ひっそりとお生まれになりました。それも象徴的で、貧しく、普通の人として誕生なさいました。王家の血筋とはいえ、もうその時代にはそんなことは忘れ去られていました。しかし、神々しい天使がその誕生を知らせました。しかし、その知らせた相手は社会の底辺と呼ばれる職業だった羊飼いたちでした。そして、彼らが救い主の誕生を多くの人々に伝える役目を与えられました。

神様はどうして、世の救い主の誕生をこんなにも小さく、貧しく、力のない存在としてこの世にあらわされたのでしょうか？この、力のない、頼りのない、情けない姿こそが、真の救い主のお姿であると御使いは語りました。

やがてこの方が、すべての人類の罪を背負い十字架にはりつけにされ、罪人として殺されます。しかし、その三日目に死人の中からよみがえり、弟子たちにその希望のメッセージを届けるためにご自身を明らかになさいました。これは普通には決して考えられないできごとです。しかも、このご自身の復活をすべての人にはあらわされませんでした。決してパフォーマンスで終わりにならないようにという注意からだったのでしょうか。今でも、注目されるような人々は派手なパフォーマンスをしなければなりません。そうではなく、決して信じられない出来事だったので、主は人々の信仰を求めました。キリストの誕生の時も同様でした。決してメシアとは信じられない状況でした。しかし、信じ受け入れた人々がいたのです。